特別講演　2

米国における小児臨床研究について

高山ジョン一郎（国立成育医療センター総合診療部）

元 American Academy of Pediatrics, Committee on Pediatric Research
元 Ambulatory Pediatric Association, Region X Co-Chairperson

臨床研究とは疫学から clinical trial を含む幅広い研究の事を意味するが、重要なのは現場で専念している診療医が「疑問」と感じた所から始まる事である。診療に適切な研究、つまり毎日の診療の質を良くする（変える）結果が得られる新たな研究、が求められる。米国小児科学会（American Academy of Pediatrics: AAP）ではこの様な研究を長年支援してきたが、特に注目されるのが、開業医のネットワークが行う研究である（Pediatric Research in Office Settings: PROS）。元米国外来小児科学会（Ambulatory Pediatrics Association: APA）の会長、C DeAngelis によると、良い研究を行うためには時間が必要である。大学病院の勤務医は研究費を得て時間の確保が可能であるが、開業医はその様な余裕がない。しかし多数の開業医がコラボレーションをすれば、臨床研究に参加して有用な結果を出せる。

今回の講演は、限られた時間の中で開業医が行った、可能である (Feasible)、面白い (Interesting)、新しい (Novel)、倫理的 (Ethical)、そして適切 (Relevant)な研究を紹介する。　内容は AAP の Practitioner Research Award を獲得した研究と PROS ネットワークで行われた研究を主として、臨床の経験から研究方法までの流れ、AAP や PROS の具体的な組織と働き、そして研究の評価とアウトカムを含む。PROS の研究は、例として思春期の２次成長（secondary sexual characteristics）の調査と３ヶ月未満の児の発熱対応（febrile infant study）である。